

## 大津町議会総務常任委員会と大津町消防団との意見交換会 会議録

1. 日 時 令和2年1月31日（金） 午後7時00分
2. 場 所 役場仮庁舎 2階 大会議室
3. 出席者 (大津町議会) 7人  
委員会 荒木委員長、源川副委員長、大塚委員、府内副議長  
山部議員  
議会 桐原議長  
議会事務局 大塚  
(大津町消防団) 12人  
古庄団長、坂本副団長、古庄副団長、堤第1分団長、藤本第2分団長、  
松田第3分団長、府内第4分団長、岩下第5分団長、矢野第6分団長、  
永田第7分団長、松永第8分団長、福山本部班長  
(町執行部) 4人  
藤本総務部長、坂本総務課長、紫藤消防主任、川辺

### 4. 検討課題・意見交換

#### ・各分団より

#### (1) 消防団員の確保について

- ・本部班が現在55名。今後もこの程度の人数が見込まれるのであれば、分団とする検討も必要ではないか。
- ・南部・中部・北部など地域によっても課題が異なる。
- ・出初式などの行事でも参加人数が定数の半分以下というのが現状。通常の活動への参加者も各班では半分以下。サラリーマンが多く、職場が遠い団員は日中の参加は不可能な状態。
- ・今の定員数より少ない人数でも実際の活動自体はなんとかできている状態であるため、定員数の見直しをしてもいいのではないかと意見がある。
- ・世帯数が減る中、団員数は減少することなく、40～50代のベテランの団員も活躍していただいている状況。
- ・伝統を引き継ぎ、活発に活動ができている分団・班もあるが、地域によって温度差を感じる。厳しい意見もいただく。
- ・消防団としてだけでなく、地域のコミュニティの一つとして活動をしたい。
- ・勧誘に行っても親に断られることもあったが、地震後は消防団を理解する意識が高まったように感じる。
- ・新興住宅地は町外や県外からの住民が多く、人口は増えても団員を増やすのは難しい。
- ・息子と入れ替わりでなければ抜けられない現状。

- ・幹部になりたがらない。(部長→副分団長→分団長のラインが決まっている)
- ・新興住宅地などは特に「声をかけても仕方ない(断られる)」という考えから声かけを積極的に行えていないため、そこを解決していきたい。
- ・小学生の保護者の年代をうまく取り込みたい。

## (2) 活動実績がない団員の増加について

- ・以前のように、強制的に参加を求めることは難しくなっている。たしなめるように声かけをしている。
- ・30年上消防団に在籍している団員もおられ、ゆっくりしてもらいたい気持ちもあるが、実活動人数を考えて残ってもらっている現状もある。

## (3) その他

- ・行政区ごとに団員数を定めてあるが、地域の現状に則した見直しも必要ではないか。

### ・各分団の現状を踏まえて

消防団：課題が様々であり、すぐに解消できるものではない。何か手立てやご意見はないか。

委員会：現状は理解できた。どの地域も課題を抱えている。時代が変わり、昔はこうだった、という話は参考にならない状態。

今の若い団員の意見を取り入れて、それに合わせ、変えるべきところは変えていかなければ、団員の確保には繋がらないのではないか。団員の意見をよく聞き、少しずつでも前に進めるしかない。

実人数をもとに定員数を見直す必要はあると思う。

委員会：個人へ渡される出動費等はどの程度か。

消防団：金額は班によって異なる。

委員会：金額を上げることも出動を促す手立ての一つではないか。

消防団：視察先の状況は。

委員会：昨年視察した三重県いなべ市の状況説明。4町合併を機に人数、金額を見直している。オートマ限定解除の費用等への補助制度を創設したり、協力企業の募集にも力を入れるなどの対策を講じていた。

金銭的な面では、出動した者に出動費を渡す方法も一つではないか。

消防団：消防団の魅力をどう作っていくかということも課題と認識している。

協力企業の募集とはどういったものか。

執行部：国が推進する「消防団協力事業所表示制度」は、消防団員を雇用する事業所等の一層の理解と協力を得るとともに、協力企業事業所等の地域貢献のPR策としてステッカーの表示やHPで周知などを行うもの。現状ではなかなか全国的に浸透していない。

委員会：美咲野に住み、各分団に所属している団員も多いと聞く。何人程いるのか聞いた話では、15人ほどの団員が各分団に散らばっているとのこと。

- 消防団：各分団に3～4人はいるような状況と思われる。  
美咲野班は現在後迫班の一部として活動しているが、施設等を整備し、数年のうちには美咲野班として独立させる見込み。
- 委員会：区割の見直しという話は各班などから出ていないか。
- 消防団：6、7分団は班の統合の話も出ているが、積載車の台数等の課題もある。
- 委員会：北部の団員の話を知ると、人手不足で厳しい状況がある。例えばの話、6、7分団を統合して1～4班を作り、1班は平川（上）・米山・古城、2班は平川（下）、3～4班は矢護川を同様に分けて担当し、人手が足りない場合はそれぞれからカバーするという事はできないだろうか。
- 消防団：6分団でもそういった話は出ているが、各地域の団員数のバランスが悪いことが課題になっている。
- 委員会：カバーし合えるアイデアを出していくほかないのではないか。
- 消防団：北小に統合された後の年代が増えてくると、北部がお互いにカバーしやすい体制が整うと思う。
- 消防団：積載車の点検や小型ポンプの管理には、一班に10名程度が必要と思われるが、個人に負担が寄ってきている。
- 議長：消防団だけで課題を解消していくことは難しいと感じる。消防団の役割、補完的（自主防災組織など）な団体の役割の整理なども必要。  
2分団の岩坂班の人数が多いのは、水害の可能性などを考慮してきた歴史があり、地域事情を踏まえてバランスをとってきているが、現状と照らし合わせることも必要ではないか。  
町は将来的な防災の方向性を、消防団も含めて考えなくてはならない。  
大学生を機能別消防団にするなどの事例もあるが、地域によって課題に差があるため、様々な手段を組み合わせなければ課題の解消には至らないように思う。
- 執行部：ボランティア精神での日々の活動、大変ありがたく思っている。町としては消防力の維持を第一に考えるべきと考えており、将来的に目指す方向性をある程度の示す必要があると考えている。一口に機能別消防団といっても多様であり、企業からの支援なども様々な方法が考えられる。火災だけでなく人探しなど、マンパワーが必要になる案件も多く、様々な先進事例を参考に引き続き消防団と協力しながら検討をしていけたらと思っている。
- 消防団：次回までに、各分団の必要人員の把握や統合の案などを整理したい。
- 委員会：共に検討を重ねて解決策を探っていきたい。

閉会 午後8時13分